

令和4年度第1回岡崎市放課後児童クラブ支援員研修会レポート

【日時】 2022年（6）月（9）日（木）10時～11時45分

【会場】 岡崎市役所福祉会館6階大ホール

【内容】 放課後児童クラブにおけるアレルギー対策のポイントとエピペン実習

【講師】 中西里映子さん（NPO 法人アレルギー支援ネットワーク）

【クラブ】（つくしクラブ）

【名前】（西村 巧）

本日の研修で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

コロナ禍になって数年。

未だ5類に落とさず国民の大多数が脅威の2類の緩さに慣れ親しんだ矢先、日にちを分けての市の研修。今回はアレルギー。

僕ら子どもの時、こんなにアレルギーっていたかな？と思われるほど昨今の人々はアレルギーに苦しむ。無菌大国ニッポン万歳。

もはや地球に住みづらくなりつつあるのにそれでも人類は賤い続けながらアレルギーと日夜戦う。無菌大国ニッポン万々歳。

そんなアレルギーの戦士の講師は現在のアレルギーの状況や対応策を僕らに伝導する。

毎年少しずつ変わっていくアレルギー対応。

昨年、「絶対だ」、って聞いていた食物アレルギー、除去食等々も日々の研究の結果、今年はまた少し変わっていた。多分来年も多少変わっているのだろう。

僕らの業務はアレルギーを持つ子どもたちを安全に各家庭へお返しをすること。

おやつ提供であったり、昼食提供・・・、一つ間違えればそれは最悪「死」を招く。

だからこそ細心の注意を払いながら紙袋の裏の成分表を注視する。

しかし戦士講師曰く、現在はその成分表も見方が難しいとのこと。

企業努力は「目立つアレルギー表示」。なるほどこれなら安易にアレルギー成分がわかる。

そんな事に気を使いながら、しかし命にかかわる事から、アレルギーを持つ子どもは特別視をしなくちゃ責任重大だ。そうではない児童はそれはそれで蔑ろにせず、同じように気かけ好きなおやつを探し出す。毎年入所してくる児童は毎年違う個性で、そこに付随する個性あふれる様々なアレルギー。

戦わざるを得ないVSアレルギーに否が応なく戦士にまつりあげられた僕らは無知の穴埋めを余儀なくされた「アレルギー講習」に今後もまた参加しなければならない。アレルギー研究は日々変わり、新たなアレルギーがまた出現するならばそれに沿って勉強し続けなければならないからだ。

子どもたちのために、保護者の方々が安心出来るように、僕らは休むことなくまだまだ勉強しなきゃな、と、再三思う研修会だった。

けど、エピペン操作は変わらなかったのだからこれだけは何気に安心したなあ。

（使いたくはないが・・・）